

日本看護歴史學會 會報

日本看護
歴史学会
第72号
2019年7月15日

日本看護歴史学会第33回学術集会のご案内

高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える

日 時：2019年8月31日(土)・9月1日(日)

会 場：日本赤十字看護大学(東京都渋谷区)

会 長：川原由佳里(日本赤十字看護大学)



川原由佳里 会長

第33回学術集会のテーマは、『高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える』としました。米国では1960年代の被保険者の増加、医師の専門分化に伴う家庭医の不足などの背景があり、ナースプラクティショナー(Nurse Practitioner; NP)教育がはじまりました。当時のアメリカの社会構造は、現在の日本のものを異なるとはいえ、看護の力が社会からより必要されているという点では類似しています。

この間、日本でも高度実践看護師の一つである専門看護師(Certified Nurse Specialist; CNS)が発足し、20年余が経って、2,279名になりました。しかし今も地域の人々の健康ニーズへの対応はまったなしの状況ですし、医師の包括指示のもとに一部の医行為を看護師に実施させるための特定行為研修がはじまり、研修を受けた看護師は拡大した業務を行っています。このような時代だからこそ、一度立ち止まり、なぜ、高度実践看護師を育成する必要があるのか、高度実践看護師は看護をどのように変えるのか、医行為における看護の自律性は保たれるのか、そして人々に提供される看護の質がどのように担保されるのかについて話し合いたいと考えます。

1日目の教育講演の岡谷恵子先生(日本看護系大学協議会)には、世界がすでに高度実践看護を導入する方向へとすすむなかでの日本の高

度実践看護の到達点と、将来の人々の健康と生活を支援するための高度実践看護師を含むケアシステムのデザインについてお話をいただきます。特別講演のJ. Fairman先生(ペンシルバニア大学看護歴史研究家)には、米国では発足してすでに半世紀になるナースプラクティショナーについて、看護が医師との粘り強い交渉を通じて、自らのアイデンティティと医行為における裁量権を保持、発展し、地域住民からの支持を得てきた歴史についてご紹介いただきます。

シンポジウムの宇佐美しおり先生(四天王寺大学)には、自らもCNSとして日本の高度実践看護の歴史を拓き、CNSの役割開発をすすめ、社会的認知度を高めるために日本CNS協議会を立ち上げるなどの活動を進めてこられた歴史を、峯川浩子先生(常葉大学法学部)には、米国の高度実践看護にかかわる免許法についてのご研究をもとに、米国の看護師のプロフェッショナル化と法の関係、業務拡大に向けた日本の看護をめぐる法制度の在り方についてお話を伺います。塚本容子先生(北海道医療大学大学院)には米国にてファミリーナースプラクティショナーとして10年勤務された経験をもとに、米国のNPの歴史の功罪両面に学び、日本におけるよりよい高度実践看護師の役割についてお考えを伺いたいと思います。

理事会セッションは、戦争と看護に関するテーマとして「従軍慰安婦の真実」、特別委員会から「教育制度の変化から看護専門職の未来を考える」、研究活動推進委員会から「今、あらためて看護歴史の研究方法を学ぶ(第5回)看護の制度史」です。口演示説、交流セッションともに、会場にて参加者が多く交流できるようなプログラムにしています。どうぞご参加ください。

日本看護歴史学会第33回学術集会プログラム

1日目 2019年8月31日(土)

	第1会場(201)	第2会場(202)	第4会場(206)	第5会場(204)
9:00	受付開始(2階EVホールにて) オリエンテーション			
9:30	開会の辞 会長講演 9:30~10:20(50分) 「歴史に見る看護の専門職化のプロセス~高度実践と役割拡大に焦点をあてて~」 川原由佳里 (日本赤十字看護大学) 座長:金井 一薫 (徳島文理大学)			
10:20	休憩(10分)			
10:30	教育講演 10:30~11:50(80分) 「日本の高度実践看護の始まり、今、そしてこれから」 岡谷 恵子 (日本看護系大学協議会) 座長:川嶋みどり (日本赤十字看護大学)			
12:00	休憩(70分)			
13:00	招聘講演 13:00~14:50(110分) 講演 90分 質疑応答 20分 「The Evolution and Future of Advanced Practice」 Julie Fairman(Penn Univ) 座長:川原由佳里 (日本赤十字看護大学) 通訳:遠藤 花子 (日本赤十字看護大学)		示説準備	展示 12:00~17:10 「日本赤十字看護大学 アーカイブ」 川原由佳里 他 (日本赤十字看護大学 看護歴史研究室)
14:50				
15:00	理事会セッション1 15:00~16:30(90分) 「従軍慰安婦の真実」 講師:永田 浩三(武蔵大学) 司会:川嶋みどり (日本赤十字看護大学) 屋宜譜美子 (元了徳寺大学)	交流セッション1 15:00~16:30(90分) 「歴史研究の技法を学ぶ 一時代背景の理解と年表作成 に始まる歴史研究一」 鈴木 紀子 (順天堂大学医学部医史学研究室、 佼成病院看護部)	示説 第1群 (示説1~示説4) 15:00~16:20(80分) 1題20分 座長:佐藤公美子 (元札幌医科大学)	示説 第2群 (示説5~示説8) 15:00~16:20(80分) 1題20分 座長:丸山マサ美 (九州大学大学院)
16:30	日本看護歴史学会総会 16:40~17:10(30分)			
17:30	懇親会(学内食堂にて)			
19:00				

2日目 2019年9月1日(日)

	第1会場(201)	第2会場(202)	第3会場(203)	第4会場(206)	第5会場(204)	第6会場(207)
8:30	受付開始(2階EVホールにて)					
9:00	理事会セッション2 9:00~10:10(70分) 「教育制度の変化から看護専門職の未来を考える」 企画:特別委員会 発表者:吉田 澄恵 (東京医療保健大学) 司会:城丸 瑞恵 (札幌医科大学)	卒業研究 (卒業研究1~2) 9:00~9:30 (30分) 1題15分 口演 第2群 (口演4) 9:30~10:00 (30分) 1題30分 座長:三上 れつ (中部大学)	口演 I 第1群 (口演1~口演3) 9:00~10:30 (90分) 1題30分 座長:大川美千代 (群馬県立県民健康 大学)	示説 第3群 (示説9~示説12) 9:00~10:20 (80分) 1題20分 座長:滝内 隆子 (金沢大学)	展示 9:00~12:20 「日本赤十字看護大学 アーカイブ」 川原由佳里 他 (日本赤十字看護大学 看護歴史研究室)	交流セッション2 9:00~10:30 (90分) 「被爆地長崎における放射線看護教育の歩み」 浦田 秀子 他 (長崎大学大学院)
10:30						

	第1会場 (201)	第2会場 (202)	第3会場 (203)	第4会場 (206)	第5会場 (204)	第6会場 (207)			
10:30	休憩30分 シンポジウム 10:40~12:40 (120分) 「高度実践時代に向けて看護と専門職のこれからを考える」 座長：田中 幸子 (東京慈恵会医科大学) 春日 広美 (東京医科大学) シンポジスト： 塚本 容子 (北海道医療大学) 峯川 浩子 (常葉大学) 宇佐美しおり (熊本大学) 次期学術集會会長挨拶 閉会	理事会セッション3 10:40~12:10 (90分) 「今、改めて看護歴史の研究方法を学ぶ(第5回)看護制度史」 企画：研究活動推進委員会 発表者：矢野 正子 (聖マリア学院大学名誉学長) 司会：丸山マサ美 (九州大学大学院)	口演 I 第3群 (口演5~口演7) 10:40~12:10 (90分) 座長：刀根 洋子 (和洋女子大学)	示説 第4群 (示説13~示説17) 10:40~12:20 (100分) 1題20分 座長：岡山 寧子 (同志社女子大学) 鷹野 朋実 (日本赤十字看護大学)	展示 9:00~12:20				
12:00									
12:40									

■ 当日参加費 (※学生は当日学生証をご提示ください)

会員	非会員	学生 (院生を除く)	懇親会費 (当日申込可)
8,000円	9,000円	500円	4,000円

■ 問い合わせ先

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学
 日本看護歴史学会第33回学術集會 事務局
 E-mail: 33rdjsnh@redcross.ac.jp

**理事会セッション1：戦争と看護
 「従軍慰安婦の真実」**

講師：永田 浩三 (武蔵大学)
 司会：川嶋みどり (日本赤十字看護大学)
 屋宜譜美子 (元了徳寺大学)

1893年の日清戦争から1945年の太平洋戦争敗戦まで、どの時代の戦争にも看護師は、傷病兵士らの救護に身を賭して従事し、空襲や原爆投下時の非戦闘員らの看護にも活躍しました。こうした事実を直視すれば、看護歴史学を探究する者として、戦時下の看護や看護師の直面した諸事象を抜きにはできません。そこで、数年前、本学会では、毎年「戦争と看護」をテーマにした理事会セッションを開催することを申し合わせた次第です。

そこで、今年は、「慰安婦問題の真実」を介して歴史的認識を深めることにしました。

第二次大戦下、日本軍兵士らの性奴隷—慰安婦として拉致や強制動員された韓国始め東南アジアの女性たち。戦後も人知れぬ苦しみに耐えながら生きて来た彼女たちの名誉回復のためにも、この問題を通じて通るわけには参りません。戦争と性の問題は、女性の人権を超えて人間の尊厳に関わる問題でもあります。

講師には、武蔵大学教授で元NHKプロデューサーの永田浩三先生をお招きし、「ETV2001」で「問われる戦時性暴力」に対する政治介入のご経験を通して、テーマにアプローチして頂きます。

**理事会セッション2：特別委員会
 「教育制度の変化から看護専門職の未来を考える」**

発表者：吉田 澄恵 (東京医療保健大学)
 司会：城丸 瑞恵 (札幌医科大学)

特別委員会では、講師に東京医療保健大学教授吉田澄恵氏をお迎えして、「教育制度の変化から看護専門職の未来を考える」をテーマにお話をさせていただきます。

近年、少子高齢社会を背景として地域包括ケアシステムが構築され、看護者に期待される役割が一層大きくなっています。このような状況の中で看護教育も時代のニーズに即した変化が生じています。例

えば、看護実践能力を備えた質の高い人材育成を目的として、看護系のすべての大学が看護師養成のための共通したモデル・コア・カリキュラムが策定されました。これまでも時代の様々な変化の中で、看護教育制度が変化してきています。吉田氏の豊かなご経験・研究成果を踏まえたお話からこの変化を読み解き、看護専門職に求められること、および将来的展望について、皆様と検討したいと思います。

理事会セッション3：研究活動推進委員会

今、改めて看護歴史の研究方法を学ぶ（第5回）看護制度史
「わが国の看護制度の過去・現在・未来―米・英・タイとの比較を通して―」

発表者：矢野 正子（聖マリア学院大学名誉学長）

司 会：丸山マサ美（九州大学大学院）

令和元年、研究活動推進委員会企画第5回は『看護制度史』です。

講師として矢野正子先生（聖マリア学院大学名誉学長）をお迎えして、研修会を開催いたします。皆さまの多数のご参加をお待ちしております。

＜講演内容＞

近年我が国の多くの看護職は、大学間交流・研修・研究などで米・英・タイなどを訪れるようになり、その経験が雑誌などで紹介されている。これらの貴重な報告を読む時、筆者は、その国の看護や医療の歴史の流れが解ってい

ない、と気づいたのがこの作業の始まりである。

先ずその国の看護の歴史の流れを知る、そしてそれを補う密接な資料を探す、場合によってはそれがメインであったりするが、各国の制度の違い（例えば、国試・免許更新・准看護師・高度実践看護師の有無など）、また、共通課題（例えば、看護政策体制、“看護とは”・“看護師とは”・“看護師のコンピテンシーとは”の明記など）への対応を明らかにする事であった。これらの結果から、わが国の看護制度の現状と今後を考える機会となれば、と思う。



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 2019年1月～2019年6月入会

祖父江かおり (19002)	菊池ひとみ (19003)
塩見 和子 (19004)	細野 知子 (19005)
村上 優子 (19006)	伊田 裕美 (19007)
古城戸靖子 (19008)	倉鋪 桂子 (19009)
上里利恵子 (19010)	清水かれん (19011)
酒井 千恵 (19012)	田中総一郎 (19013)
田中愛希子 (19014)	湯浅貴実子 (19015)
田仲 一枝 (19016)	半田 味那 (19017)
木野 涼介 (19018)	平川 恵子 (19019)
内藤なづな (19020)	浦田 秀子 (19021)
大石 紘大 (19022)	石川 恵子 (19023)



お知らせ

■事務局から

2019年度会員動向(2019年6月末現在)

1. 会員数	345名
2. 入会者	22名
3. 退会者	9名

■投稿論文送付先

投稿論文送付先はお間違いないようご注意ください。
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学
日本看護歴史学会編集委員会
鷹野 朋実 宛

編集後記

学術集会などの記録を残すことは、学会の重要な役割と考えます。日々の出来事を歴史として整理・保存しておきたいと思えます。(ま)

日本看護歴史学会会報 第72号

企画・編集 小田 正枝（徳島文理大学大学院名誉教授）
三上 れつ（中部大学）
山崎 裕二（日本赤十字看護大学）

発行責任者 加藤 重子（事務局会報担当）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒737-0004
広島県呉市阿賀南2丁目10-3
広島文化学園大学看護学部内
加藤 重子/岡田 京子
TEL 0823-74-6000（代表）
FAX 0823-74-5722
e-mail katoi@hbg.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>